

項目		説明
試料・情報 の利用 目的 及び 利用方法	研究課題名	癌組織におけるラミニンとその関連分子の発現、局在の研究
	研究目的	<p>研究代表の越川は、血清ラミニンγ2単鎖（以下、LG2mとする）が慢性ウイルス肝炎患者からの肝発がんや早期肝癌患者の遠隔臓器転移を予測する指標となることを報告した（Hepatology, 2021）。さらに、染色体の1, 9番の転座がラミニンγ2鎖と核内受容体を融合した新たなLG2m融合遺伝子（以下、LG2m-F）を産生することを見いだした（投稿中）。LG2m-F遺伝子は癌細胞に特異的に発現することから、がん治療・診断の新たな指標となる可能性が示唆されている。</p> <p>本研究では、種々の癌腫におけるLG2m-F蛋白質の発現・局在をIHCにより検討し、各癌組織でのLG2mとLG2m-Fの発現・局在の異同を明らかとする。また、IHCにおいてLG2m-Fが癌化のどの過程に寄与するのかを明らかとするこ とで、新たな癌治療・診断に応用するための基礎的情報を構築する。</p>
	研究対象者	2005年1月から2020年3月までの間に当センターにて手術、バイオプシーを受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2021年 9月 13日 ~ 西暦 2025年 3月 31日
利用する試料・情報の 項目 (チェック[X]が入った項目 を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（生体試料センター <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録 保管試料）
試料・ 情報の 管理に ついて の責任 者	当センター研 究責任者	越川 直彦
試 料・ 情報 を利 用す る者 の範 囲	当センターでの実 施診療科/部局等	臨床研究所がん分子病態学部 病理診断科
	共同研究の場合、共 同研究機関および 各施設での研究責 任者	越川 直彦（東京工業大学生命理工学院 健康医療科学分野）